

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19330081

研究課題名 (和文) ワーク-ファミリー関係論の組織心理学的発展

研究課題名 (英文) I/O psychological approach to work-family relations

研究代表者 渡辺 真一郎 (WATANABE, SHINICHIRO)

筑波大学・大学院システム情報工学研究科・准教授

研究者番号：50282330

研究代表者の専門分野：組織行動論

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：ワーク-ファミリー間関係；Big-5 性格特性；内発動機；継続学習；潜在自己；顕在自己

#### 1. 研究計画の概要

仕事生活領域と家庭生活領域に対する個人の態度や行動の相互作用の過程と結果について考察するのが本研究の目的である。両生活領域間の態度の関係については、全体的仕事生活満足、全体的家庭生活満足といった広義な態度だけでなく、各領域の具体的な下位次元(仕事内容、給与、家庭内人間関係、家族の凝集性)に対する態度に着目する。さらに態度間の関係に影響を与える第3の変数として、心理学的個人差変数(性格特性や欲求等)や状況要因(職場環境、文化)等を考慮する点が本研究の主な特徴と言える。

#### 2. 研究の進捗状況

研究の初年度(H19)から次年度(H20)にかけて、既存の理論と研究を概観し理解を促進した。また、本研究で用いるための尺度を開発するための面接調査、及び質問紙調査を予定通り実施した。面接調査からは、文献だけからは決して得られない貴重な情報を取得できた。質問紙調査については、小規模ではわが国とカナダにおいて実施することができた。その結果、上記の過程を経て開発した尺度の信頼性が次年度以降の調査を行う上で十分に高いことを確認した。

3 年目(H21)は、主として先に開発した心理学的個人差変数の妥当性に目を向けた。本研究で作製した新尺度が妥当であると評価されるには、それらが別概念(例えば、職務満足、ワーク・モチベーション等)の既存尺度と所期の連関を有しているかについて検証しなければならない。具体的には、3つ

の研究を実施した：

- (1) 特性尺度と転職意思に関する研究
- (2) 特性尺度と内発的動機に関する研究
- (3) 特性尺度と継続学習行動に関する研究

その結果、尺度の妥当性を確認することができた。

上記3つの実証研究は、単に尺度の妥当性だけをテストするのではなく、組織行動研究に対する理論的貢献、及び現実社会に対する実際の貢献を付加し得る内容とした。具体的には、上記(1)～(3)の研究はそれぞれ Dyadic organizing 理論、内発的動機付け理論、キャリア発達論に対する貢献、及び人事管理の実務施策に対する貢献が期待される。以上の3研究は査読付論文として学術雑誌に受理されるに至った。

#### 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。  
(理由) 理論的研究、及びそれにもとづく尺度開発、及びデータ収集、査読論文受理件数などを考慮すると、本研究プロジェクトの達成度を高く評価することができる。ただ、米国からのデータが予定通り収集されていない。その代わりに中国からのデータを収集することができた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成22年度は、本プロジェクトの最終年度である。昨年度までにわが国及び中国において本研究のためのデータを収集するこ

とができた。また、当初は予定していなかったわが国の数病院で働く約300名の看護師からのデータ収集が見込まれている。すべてのデータの inputs が終了するのは今年の5月頃となろう。ここまでは、研究代表者が主として行う予定である。

本年5月から7月にかけてはデータ解析を行う予定であり、研究分担者にも活躍を期待する。具体的には、上記の研究目的に記した内容を共分散構造分析を用いて解析する。そして8月以降は最終的な論文執筆に入ることを計画しています。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Watanabe, S., & Tareq, M. Mapping a psychological processes underlying the causal link from locus of control to intrinsic job satisfaction: A mediating role of perceived work environment. *The Japanese Journal of Administrative Science*, 23, 2010, 1-14. (査読あり)
- ② Watanabe, S., & Kanazawa, Y. A test of a personality-based view of intrinsic motivation. *The Japanese Journal of Administrative Science*. 22, 2009, 117-130. (査読あり)
- ③ Watanabe, S., & Hammer, T.H. On a psychological trip from latent self to manifest self: A study on multiple selves in a single situation. *The Japanese Journal of Administrative Science*, 22, 2009, 103-115. , (査読あり)
- ④ Yonetani, Y., Watanabe, S., & Kanazawa, Y. On the relationships among organisational family supportiveness, work-family conflict, and turnover intention -- Evidence on Japanese men. *International Journal of Human Resources Development and Managemant*, 7, 2007, 319-334. , (査読あり)

[学会発表] (計 5 件)

- ① Watanabe, S., & Shida, K. Development of performance and competency scales for Japanese registered nurses. *Association for Psychological Science*, May 24, 2009 (San Francisco, USA).
- ② Watanabe, S., Tareq, M., & Kanazawa, Y. Locus of control and intrinsic job satisfaction: The mediating role of creative work environment. *Association for Psychological Science*, May 22, 2009 (San Francisco, USA)
- ③ Watanabe, S., & Judge, T.A. A new look at the work-family relationships – Study 1. *Association for Psychological Science*, May 24, 2008 (Chicago, USA).
- ④ Watanabe, S., & Judge, T.A. A new look at the work-family relationships – Study 2. *Association for Psychological Science* May 24, 2008 (Chicago, USA).
- ⑤ Watanabe, S., Iwanaga, S., & Kanazawa, Y. An attempt at predicting the why and the how of customer-oriented behavior. *Association for*

*Psychological Science*, May 25, 2007  
(Washington, DC, USA).